

## 令和5年度第3回三重県教育改革推進会議概要

日 時 令和5年12月13日(水) 10時00分～12時00分

場 所 三重県勤労者福祉会館 研修室

出席者 三重県教育改革推進会議委員 12名

### ●「三重県教育ビジョン（仮称）」中間案（修正版）に関する主な意見等

- 副題について、主語が子どもたちであるなど、学校が子どもたちの主体的な学びをサポートするというこれからの学校教育の方向性と合っていると感じる。
- 不登校の児童生徒を含めて、子どもたちがICTを活用しつつ、自ら学びを実現できるよう、教職員が支えていくという視点も必要ではないか。
- 子どもたちが学力を身につけたり、子どもたちにいじめはいけないと教えたりする上で、家庭や学校の役割を明確化することが大切。このことは教員の人材確保にもよい影響があると考ええる。
- 親子で本県の教育や学校への関わり方などを考えられるよう、本計画の内容をわかりやすくしたものがあるとよいのではないか。
- 各市町が本計画をふまえて教育施策大綱や教育振興基本計画を策定し、県と市町が同じ方向を向いて取り組むことが重要。
- 県民・教職員・企業等に対する本計画の周知の成果に関するKPIを設定してはどうか。
- 本計画の策定にあたって、多くの子どもたちの意見を聞いたことを伝えることが大切。
- 「教育を取り巻く現状」の「⑪地域における学びの状況」について、地域間格差を考える上では、教育活動の結果など子どもたちの状況を地域別に示すことが重要。
- 「教育を取り巻く現状」の「⑪地域における学びの状況」において、学級規模の縮小が進んでいることなどを記述してはどうか。

- 施策1(1)「一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育の推進」について、自己肯定感を高めることは重要であるが、知識・技能、思考力・判断力等の裏付けがあることが大切。
- 施策1(1)「一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育の推進」のKPIについては、資質・能力の育成や教育環境の整備など、さまざまな施策の総括的評価として設定されていることを教職員や保護者等に周知することが重要。
- 施策1(1)「一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育の推進」について、自分らしさや個性を受け止めることに関する取組を記述してはどうか。
- 施策1(8)「体力の向上と運動部活動改革の推進」について、高等学校における運動部活動の課題について記述してはどうか。
- 高校生が創業を身近に感じることができるよう、施策2(1)「キャリア教育の推進」において、創業に対する関心を促す取組についてさらに記述してはどうか。
- 施策3(2)「特別支援学校における自立と社会参画に向けた教育の推進」について、一部の学校では施設の狭隘化が進む中、現在、在籍する子どもたちに対する取組が重要。
- 施策4(3)「いじめに対する迅速・確実な対応の推進」について、加害者への対応にあたっては、支援するという視点が必要ではないか。
- 施策5(2)「外国につながる児童生徒の自立に向けた力の育成」のKPIについて、外国につながる児童生徒の日本語習得状況に関する指標を設定してはどうか。
- 施策5(4)「子どもたちの安全・安心の確保」について、空調設備の整備に関する具体的な取組内容を記述してはどうか。
- 施策5(5)「学びのセーフティネットの構築・学びの継続」について、ヤングケアラーへの支援にあたっては、モデル事例を示すことが重要ではないか。
- 施策5(5)「学びのセーフティネットの構築・学びの継続」について、家庭の経済的環境だけでなく、文化資本の状況にも注目することが必要ではないか。

- 施策6(1)「教職員の資質向上・人材確保とコンプライアンスの推進」について、子どもたちの成長に関わることができることなど、教職の魅力を具体的に記述してはどうか。
- 教職員の人材確保については、正規職員だけでなく講師の確保も重要。
- 教職員の人材確保のため、教員養成課程のある大学に対して直接周知してはどうか。
- 三重大学では県教委や市教委と連携し、学生に対して教職の魅力を発信する取組を行っているものの、一般の報道の影響もあってか、教職に対するイメージには厳しいものがある。
- 新規採用された教職員に適性がなく退職する事例が見受けられ、新規採用職員へのサポートが必要ではないか。
- 職場の先輩が忙しく、相談しづらいという初任者からの意見をふまえ、教職員が相談できるカウンセラーの配置を考えている。また、退職した校長等に相談員になってもらい、若い教員と一緒に家庭訪問等を行う取組は有効であると考えている。
- 施策6(2)「学校における働き方改革の推進」について、学校における働き方改革を進めるために、学校や教職員の業務を削減していくことを明示する必要があるのではないか。
- 施策6(2)「学校における働き方改革の推進」のKPIについて、教職員のウェルビーイングの向上をめざし、日本一教職員が働きやすい職場にするという意気込みを示すという意味でも、時間外労働時間数の削減など客観的な指標を設定してはどうか。
- 現場では紙ベースの仕事が行われており、ペーパーレス化を進めることで、業務量を減らすことにつなげることができるのではないか。
- 施策6(3)「ICTを活用した教育の推進」について、ICTを活用して諸課題を解決する取組として、学習履歴などの教育データの利活用について記述してはどうか。
- ICTの急速な進化をふまえ、専門人材の活用など、教職員のICT活用へのサポートについて、記述を充実してはどうか。

- 学校や教職員の担う業務が複雑化・多様化する中、地域の力を活用しながら教職員の業務負担を軽減することが大切。また、地域に開かれた学校づくりを推進するため、地域学校協働活動推進員等の活用を図ることが重要。
- 教職員や地域学校協働活動推進員等の確保に向けて、より多くの人たちに情報を発信していく必要があるのではないか。
- 学校規模の適正化に向けた検討を進める上で、さまざまな配慮が必要であることを記述してはどうか。